



令和7年 3月 6日

令和6年度 自己評価・学校関係者評価書

学校法人富塚学園 湖東幼稚園長 山口 崇

学校関係者評価委員長 古橋 彩乃

1 幼稚園の教育目標

・やる気のある子 ・けじめのある子 ・思いやりのある子

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

・指導計画の改善 ・気持ち良い挨拶習慣を身に付ける

3 評価項目の達成及び取組状況及び今後の課題への取り組み方法

（評価 A・・・良い B・・・やや良い C・・・成果なし D・・・悪い）

評価項目	結果	理 由 及 び 改善策	関係者 評価
教育課程・指導	B	全体として、計画的な指導や保育の振り返りの意識を高め、学年会での共有や話し合いを行っている。しかし、一人ひとりの興味や姿に寄り添う柔軟な対応や、計画の改善に向けた積極的な見直しが課題として挙げられる。 今後の改善策としては、「子ども主体の計画づくり」「振り返りと計画の改善を意識した話し合いの充実」「見通しを持った計画の策定と柔軟な対応の強化」を意識することで、より質の高い保育が実現できるよう努める。	A
教職員の資質・連携	A	言葉の発達について、子どもが自分の気持ちを伝えたり、豊かな表現ができるよう、丁寧に関わることを保育者として心がけている。特に子どもたちの話をしっかり聞き、分かりやすい言葉で伝えることを大切にしている。 また食育では野菜を育てたり、食材について学ぶ機会を作ることで、食べることへの関心を高めている。 個別の発達支援の方法については、保育者同士での情報共有をより密にし、一貫した対応ができるよう努めている。	A
保護者との連携	B	保護者との連携を大切にし、子どもの成長や生活の様子を丁寧に伝えるよう努めている。面談や電話などを活用し、保護者の思いを受け止める努力を行い、また療育機関とも協力して支援している。 一方で、バス通園など保護者と直接会う機会が少ないことで	B

		園の様子を十分な伝えられない課題が以前から上がっており、ドキュメンテーション・「おひさま通信」を活用しているが、伝える内容の偏りといった点の改善が必要と考える。 そのため、より保護者に寄り添った内容となるよう、保育者同士で客観的な視点を持ち、また保護者からのコメントをフィードバックとして受け取り、伝え方を改善していく。	
保護者アンケート	A	147 家庭（回収率 83%）から回答を頂き、多くの評価項目で A または B 評価を頂けた。 自由記述では、保育者が子どもに寄り添い、小さな変化にも気づいて貰えるという言葉が寄せられた。また造形展や発表会などの行事を通して、子どもたちの表現力や自主性が育っていることを実感したとの意見もあった。 一方で、「挨拶は親が促さないと挨拶を進んでしない」という意見や評価もあり、子どもが自発的に挨拶できるよう、園での働きかけを進めていく。その他、「運動遊び」や「家庭との連携」の評価項目においては「あまり思わない」という回答が少数ながら存在するため、子どもたちがより喜んで身体を動かせるような環境や計画の検討、また家庭との連携をより一層深められるよう努めていく。	A

4 学校関係者評価委員会からのコメント

園に足を運ぶ度に、沢山のお子さんの楽しい姿やキラキラとした顔を見ることができ、園生活の楽しさや安心感が伝わります。

保護者との連携は先生と保護者の直接 お会いできる機会が少ない為、難しいところにあると思うが、担任の先生はじめ、同学年の1/2のクラスの先生や4-7の先生からも 子どもの様子に関心してくれていることもあり、園全体で見守られているということを感じている。

また、保育者間で挙がった反省点を改善に活かそうと
してくださっていることが、こちらの評価表から伝わりました。

令和6年度 職員自己評価

湖東幼稚園

1. 指導計画の作成と活用

評価の良い点

- 月案と照らし合わせながら、学年会で話し合い、バランスの取れた指導計画を作成できている。
- 行事との兼ね合いを考え、計画的に週案や日案を作成する意識がある。
- 月ごとの振り返りを行い、次の計画に活かす工夫ができています。

課題

- 一人ひとりの興味や姿に寄り添った計画や柔軟な対応が不足している。
- 計画内容が昨年度と同じだったり、ねらいに偏りがある。
- 行事などがある週は、計画が事前に立てられないことがある。

今後の改善策

- 子どもの興味や発達段階を踏まえた柔軟な計画を意識し、余白のある計画づくりを心掛ける。
 - 計画作成時に、昨年度の計画やねらいを見直し、多様な視点から検討する。
 - 行事が多い時期でもスムーズに進められるよう、事前に余裕を持った計画を立てる。
-

2. 中・長期的な見通しを持った指導計画の共有

評価の良い点

- 学年での指導計画の共有ができています。
- 具体的な内容やねらいを学年会で話し合い、週案レベルまで落とし込む努力が見られる。

課題

- 長期的な計画と日々の活動の関連づけが難しく、目先の活動に重点が置かれてしまう。
- 補助の先生への情報共有が不足している。
- 幼児の興味や関心、発達などを捉えた具体的な計画が不足している。

今後の改善策

- 長期的な視点を持つため、年間を通した目標設定や成長の見通しをより明確にし、日々の活動と結びつける。
- 補助の先生も含めた計画共有の場を設け、全員が一体となって保育を進められるようにする。

3. 行事の指導

評価の良い点

- 幼児が期待感を持ち、主体的に取り組めるよう、事前の活動や声かけを工夫している。
- 頑張ったことを認め、達成感を味わえるようにしている。
- 季節の行事など、家庭で経験できないことを大切にしている。
- 発表会などでは主体的に取り組めるよう工夫し、成功体験を積ませる配慮がある。
- 行事を通してクラスの絆が深まり、自信につながる活動になっている。

課題

- 主体的に取り組める子とそうでない子がいるなど、幼児の主体性に差が見られる。
- 行事によっては保育者主体になりがちで、子どもが自主的に取り組める環境づくりが難しい。
- 子どもの興味や関心に沿った取り組みができているが、個々の意欲をさらに引き出す工夫が必要。

今後の改善策

- 期待感を持たせるため、成功体験を積み重ねられるよう、小さな目標を設定する。
 - 幼児の意見を取り入れ、行事内容を一緒に作り上げていく。
 - 小さな行事でも、行事を単発のものではなく、その前後の活動と関連づけ、継続的な学びを促す。
-

4. 活動の振り返り

評価の良い点

- クラス全体でその日の振り返りを行う機会を設ける意識がある。
- 次の日の活動内容を伝えることで、見通しを持たせる工夫をしている。
- トラブルが発生した際には、子どもたちの意見を整理し、解決に向けて話し合う姿勢がある。

課題

- 時間が十分に取れず、振り返りが限定的になりがち。
- 発言する子が限られ、全員が参加できる場の設定が難しい。
- 子ども同士で話し合う機会が少なく、大人主体の振り返りになっている。

今後の改善策

- 毎日の振り返り時間を短時間でも確保し、話しやすい雰囲気を作る。
- 子ども全員が発言しやすいよう、ペアやグループでの振り返りを取り入れる。
- 週1回でも、輪になって自由に話し合う機会を設け、子ども自身が活動を振り返り、次への期待を高められるようにする。

5. 指導計画の改善

評価の良い点

- 週案の改善や環境の再構成をその場で行っている。
- 学年でカリキュラム作成や反省会を行い、保育の振り返りにつなげている。

課題

- 計画の改善にまで踏み込めず、その場の改善で終わってしまうことが多い。
- 行事前などで話し合いの時間が取れないことがある。
- ねらいや環境構成が適切だったかの検証が十分にできていない。

今後の改善策

- 振り返りを行う際に、単なる反省ではなく、計画の改善に結びつける意識を持つ。
- 行事の多い時期でも短時間で振り返りを行えるよう、簡潔な記録方法を取り入れる。
- 子どもの成長や変化を踏まえ、計画の見直しや環境構成の調整を定期的に行う。

総括

全体として、計画的な指導や振り返りの意識は高く、学年会での共有や話し合いが行われている点は評価できる。しかし、一人ひとりの興味や姿に寄り添う柔軟な対応や、計画の改善に向けた積極的な見直しが課題として挙げられる。また、振り返りの時間が十分に取れない、担任間や補助の先生への共有が不十分といった問題も見られる。

今後の改善策としては、

1. 子ども主体の計画・活動づくり
2. 振り返りと計画の改善を意識した話し合いの充実
3. 全職員での情報共有の強化
4. 見通しを持った計画の策定と柔軟な対応の強化 を意識することで、より質の高い保育が実現できると考えられる。

6. 危険な場所や遊び方を知り、安全に生活できるように働きかけているか

評価の良い点

- その都度、危険な遊びについて伝え、子ども同士で注意し合う姿が見られる。
- 室内や遊具の使用方法について、保育者が実演しながら知らせている。
- 戸外では未入園児も含め、危険な遊びを考えながら遊べるように働きかけている。
- クラスでの話し合いを通じて、安全への意識を高めている。
- ヒヤリハット事例を活用し、子どもたちと一緒に考える時間を作っている。
- 遊びの前に約束を確認し、安全に過ごせる習慣がついてきた。

課題

- 遊びに夢中になると、危険な行動を繰り返すことがある。
- 一部の子どもは危険を理解しにくく、衝動的な行動をとることがある。
- 事故の発生を防ぐために、より視覚的に伝える工夫が必要。
- 遊びの制限と自由な経験のバランスが難しい。

今後の改善策

- 定期的にクラスで「危険な遊びと安全な遊び」について話し合い、理解を深める。
- 視覚教材（イラストや写真）を活用し、危険な行動について学べるようにする。
- ヒヤリハット事例を共有し、子どもたちが危険を予測できるようにする。
- ルールの確認を遊びの前後に行い、習慣化を目指す。
- 危険を回避するための多様な運動や遊びを取り入れる。

7. 友達との関わりを深め、思いやりを育む働きかけをしているか

評価の良い点

- 友達とのトラブル時に互いの気持ちを代弁し、思いやりの心を育てる取り組みをしている。
- 「ちくちく言葉」「ふわふわ言葉」などを用いて、言葉の使い方を指導している。
- 感情的にならず話し合える環境作りに努めている。
- 子どもたち自身で問題を解決できるよう、見守りながらサポートしている。

課題

- 言葉の伝え方が強くなってしまう子どもへの対応が必要。
- 友達との関わりに消極的な子どももおり、支援が必要。
- 保育者がすべて仲介しないよう、子ども同士の関わりを尊重するバランスが求められる。

今後の改善策

- 感情表現の練習を取り入れ、相手の気持ちを考える力を育てる。
- 劇遊びやロールプレイを通じて、思いやりのある行動を体験させる。
- 友達との関わりが苦手な子には、少人数での交流の機会を増やす。
- 「ありがとう」「ごめんなさい」などの基本的な言葉を積極的に使う場面を作る。

8. 身近なものを大切にし、無駄をなくす気持ちを育てているか

評価の良い点

- ロッカーの整理整頓を習慣づけ、物を大切にする意識を育てている。
- 画用紙や折り紙の無駄遣いを防ぐための工夫をしている。
- 制作活動で物を大切に扱う意識が育っている。

課題

- 使える画用紙や折り紙を無駄にしてしまう場面がある。
- 石鹸やペーパーの使いすぎが見られる。
- 片付けの際に、整理整頓が徹底されていないことがある。

今後の改善策

- 制作活動で「使える部分を大切にする」習慣をつける。
 - 紙や教材を無駄にしないためのルールを決める。
 - 保育者自身が物を大切にする姿を示し、手本となる。
 - 片付けの仕方を明確に伝え、整理整頓しやすい環境を整える。
-

9. 子ども自ら挨拶をしようとする場や雰囲気を作っているか

評価の良い点

- 保育者が率先して挨拶をすることで、子どもたちも自然に挨拶ができるようになった。
- 「どうぞ」「ありがとう」などの言葉を大切にし、実践している。
- バスの乗車・降車時には、挨拶が習慣化してきた。

課題

- 保育室に入る際の挨拶がまだ定着していない。
- 初めに自ら挨拶をする子が少ない。
- 挨拶当番が形式的になり、相手の顔を見ずに言ってしまうことがある。

今後の改善策

- 挨拶の意味や大切さを子どもたちと話し合う。
- 挨拶カードやゲームを取り入れ、楽しく学べる機会を作る。
- 地域の方や保護者とも積極的に挨拶を交わす機会を増やす。
- 挨拶当番の目的を再確認し、意識を高める。

10. 自由に描いたり作ったりできる環境を整えているか

評価の良い点

- リサイクル教材や画用紙を自由に使えるようにしている。
- 子どもたちが自主的に製作を楽しめる環境を作っている。
- 片付けの仕方を伝えることで、次に使う人のことを考える意識が育ってきた。

課題

- 材料の乱暴な扱いが見られることがある。
- 限られた材料しか準備できず、遊びの幅が狭くなっている。
- お絵かきや造形遊びに偏りがちで、他の素材の活用が少ない。

今後の改善策

- 材料を大切に使う意識を高めるため、使い方のルールを明確にする。
- さまざまな素材を取り入れ、遊びの幅を広げる。
- 保育者が積極的に遊びに関わり、新しい遊び方を提案する。
- 片付けの習慣をより徹底し、整理整頓しやすい環境を整える。

11. 言葉や文字のモデルとしての姿勢

評価の良い点

- 子どもの気持ちを理解し、納得できるよう時間をかけて話し合う姿勢が見られた。
- 子どもの発言を大切にし、短く分かりやすい言葉で伝える工夫を行った。
- 文字に興味を持つ子どもに対して、正しく丁寧な文字を見せるよう心掛けた。
- 方言が出ないように意識するなど、正しい言葉遣いを意識していた。

課題

- 親しみやすさと正しい言葉遣いのバランスに課題がある。
- 言葉での表現を増やす工夫は行っているが、さらに幅広い表現を促せるよう工夫が必要。

今後の改善策

- 子どもの話を引き出すために、質問の仕方を工夫する。
- 言葉のモデルとなるために、意識的に美しい言葉を使い、正しい表現を繰り返し伝える。
- 方言の使用については、特に公式な場面で注意を払い、子どもが正しい表現を学べる環境を作る。

12. 異年齢交流の工夫

評価の良い点

- 遠足や行事、遊びの時間を活用して異年齢交流の機会を設けた。

- 兄弟関係のあるクラス同士の関わりを促す工夫を行った。
- 保育者が仲介することで、異年齢の子ども同士が自然に関われるようになった。

課題

- 年下児との交流が少なくなりがち。
- 行事以外の通常保育の時間での異年齢交流が少ない。
- 異年齢で遊ぶ時間を意識的に確保するのが難しい場面があった。

今後の改善策

- 月ごとに異年齢交流を取り入れる計画を立て、継続的な関わりを促す。
 - 朝の時間や戸外遊びの時間を利用し、自然に異年齢交流が生まれるような環境を整える。
 - 異年齢グループでの活動を増やし、年上児が年下児をリードする機会を増やす。
-

13. 個別の発達に応じた援助

評価の良い点

- 子ども一人一人に合わせた援助を意識し、観察を行いながら対応した。
- 活動に参加しやすいように具体的な手本を示すなど、個々に応じた援助を考えた。
- 子どもが挑戦し続けることができるよう支援を行った。

課題

- 子どもが自ら工夫する機会を奪わないよう、手助けのバランスを取ることが難しい。
- 感情を表現しにくい子どもへの気づきが遅れることがある。
- 援助の仕方に迷う場面があり、統一した対応が難しいことがあった。

今後の改善策

- 子どもが自分で解決できるように、援助の段階を調整する。
 - 感情表出が苦手な子どもに対して、観察を強化し、小さな変化にも気づけるようにする。
 - 保育者間で情報共有を密にし、援助の仕方を統一していく。
-

14. 食への興味や感謝の育成

評価の良い点

- 食育ポスターの掲示や、絵本の活用により、食材への興味を深めた。
- プランターでの野菜栽培や収穫体験を行い、食への関心を高めた。
- 給食室の先生へ直接「ごちそうさま」を伝える機会を設けた。

課題

- 感謝の気持ちを育むまでには至らなかった。
- 低学年向けの食育活動を工夫し、より楽しめる内容にする必要がある。
- 給食やお弁当の準備に関わる人たちへの理解を深める活動が不足していた。

今後の改善策

- 体験を通じて食への感謝を深める機会を増やす(調理体験や生産者について知る)。
 - 食材に関するクイズやゲームを取り入れ、より楽しく学べるようにする。
 - 日々の食事の中で「この野菜はどこから来たのかな？」など、話題にしながら食育を進める。
-

15. 子どもの姿を共有し、指導に生かす

評価の良い点

- 保育者間で子どもの様子を共有し、指導方法を改善する意識があった。
- 担任だけでなく、他の保育者とも情報共有を行い、多角的な視点を持つことができた。
- 子どもの良い面にも目を向けるよう意識し、プラスの視点で話し合いを行えた。

課題

- 名前が挙がらない子どももいるため、全員に目を向ける必要がある。
- 指導や援助の統一をより徹底する必要がある。

今後の改善策

- 一人一人の子どもについて定期的に話し合う時間を確保する。
 - 記録を活用し、成長の過程を可視化しながら支援を行う。
 - 指導方針を職員間で共有し、一貫した関わりができるようにする。
-

16. 配慮の必要がある子を持つ保護者の思いを受け止めたり、相談に応じたりしているか

評価の良い点:

- 面談や放課後を活用し、保護者の話を聞く機会を設けている。
- 家庭との連携を大切にしながら、手紙や電話を活用して伝達している。
- 保護者の思いを受け止め、安心できる声掛けを意識している。
- 療育機関とも情報共有し、園全体で支援しようとする姿勢がある。

課題:

- バス登降園の子どもの保護者とは話す機会が少なく、関係性を深めるのが難しい。
- 保護者の仕事の都合で、直接会うことや電話での相談が難しい場合がある。
- 保護者と園で子どもの姿の捉え方に違いがあるため、情報共有が必要。
- 療育に関する知識が不足しており、適切な支援ができているか不安がある。

今後の改善策:

- 療育や発達支援に関する研修を受け、保育者の知識向上を図る。
-

17. 個々の子どもの様子を必要に応じて保護者に伝えているか

評価の良い点:

- 主任と相談しながら、電話や手紙を活用して情報共有を行っている。
- 気になることがあった際に、できるだけ直接伝えることを意識している。
- 家庭と園での困り感を共有し、改善策を考えている。

課題:

- バス通園の保護者とは話す機会が少なく、十分な情報共有できていない。
- 直接伝えるのを忘れてしまうことがあり、保護者が知る機会を逃している。
- 全家庭に均等に情報が伝わるような工夫が不足している。

今後の改善策:

- 保護者との個別相談の時間を定期的に設け、話し合う機会を確保する。
 - 担任以外の保育者も協力し、情報共有の精度を高める。
-

18. 生活に必要な習慣が身につくよう、家庭との連携に努めているか

評価の良い点:

- トイレトレーニング、食事、衣服の着脱など、一人ひとりに応じた援助を行っている。
- 保護者と協力しながら、子どもの成長を支援している。

課題:

- 生活習慣全般についての把握が十分でなく、連携が取りにくい部分がある。
- 保護者に直接会う機会が少ないと、必要な情報を伝えそびれてしまう。

今後の改善策:

- 生活習慣の記録を作成し、家庭と園での成長の違いを可視化する。
 - 連絡帳やお便りで、就学に向けた必要な習慣について具体的に伝える。
 - 保護者向けの生活習慣に関する情報共有会を開催する。
-

19.ドキュメンテーションで子どもの成長を「見える化」しているか

評価の良い点:

- 子どもが楽しんでいる姿や、活動の発展を伝えることを意識している。
- 子どもの会話や発見を取り入れ、成長を感じられるよう工夫している。
- クラス全体の成長を伝えようとする姿勢がある。

課題:

- 行事で忙しくなると内容が薄くなり、十分な記録ができないことがある。
- ある特定の子どもばかりが記録に載り、全員の成長が公平に伝わらないことがある。
- 短い文章の中で成長の姿を的確に伝えることが難しい。

今後の改善策:

- 定期的にドキュメンテーションの作成を行い、内容の偏りを防ぐ。
 - 子どもの発言や写真をバランスよく取り入れ、全員の成長を伝える工夫をする。
 - 保育者間で情報を共有し、客観的な視点で記録を作成する。
-

20.「おひさま通信」で子どもの成長を伝えられているか

評価の良い点:

- 具体的な子どもの姿を伝えようとする意識がある。
- 読んだ保護者が安心できるような表現を工夫している。
- 子どもの発言や表情を取り入れ、イメージしやすい文章を心掛けている。

課題:

- 忙しい時期には十分に記録できず、情報量が不足してしまうことがある。

- 成長が見えやすい子どもとそうでない子どもで、記録の量に差が出ることもある。
- 文章での表現力をさらに高め、伝わりやすい内容にしたい。

今後の改善策:

- 忙しい時期でも簡単に記録できるよう、短文でも更新する仕組みを作る。
 - 目立たない子どもの成長も意識的に取り上げ、全員に公平な情報を届ける。
 - 保護者の反応をフィードバックとして受け取り、伝え方を改善していく。
-